

農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

学術情報課程通信

農大

言葉の大切さ

私たちは、日常の生活の中で意識せずに会話し、人とのコミュニケーションをとっています。会話が時として他人の心を傷つけたり、幸福感で満ちた状況にすることは誰もが経験しています。

さて、私は今から四年ほど前に博物館長を拝命しました。館長としての役職を通して、小さな子供さんからご年配の方々とは話をさせていたでいています。大学に併設された博物館といっても来館者はお客様であり、サービスマス的な意味合いも兼ね備えていると考えます。お客様に対してどのような言葉で東京農業大学の過去・現在・未来を伝えるべきなのか、私は来館者に応じてわずかな会話の中からその表現方法を意識して変えていることもあるのです。

小さな子供さんや展示物にあまり興味のない通りがかりの方に難しい学術情報や展示物の解説をしても、その言葉が来館者の心を掴むことにはないでしょう。そんな場合には、展示情報を身近な物事として平滑な言葉で語りかけるようにしています。反対に専門性に長けた方が来館された際には、その方の知識をしっかりと聞き取り、会話から短い時間で学んだことを咀嚼して展示物の情報を的確に東京農業大学が発信する学術的な意義などを言葉としてお届けします。

私は、子供が幼少のころ、「言葉の大切さ」を自分の子供から教えられることがあります。すなわち、親の言葉が乱れれば如実に子供の言葉も悪くなり、言葉の活用法やボキャブラリーの豊かさも日常会話に起因するものであるといったことです。

東京農業大学「食と農」の博物館長

江口 文陽

学芸員や図書館司書などの専門職やその課程を修得中の学生諸君は、科学者の一員と私は考えています。科学技術の表記においては、「この試薬を入れる」のか「この試薬に入れる」のかなどというように「を」「に」を使うかによって操作を誤ってしまい化学反応による事故も起こりえるのです。さらに、日常生活の中では、曖昧な言葉を使用することがあります。例えば「あれ」「ください」、「これ」「すね」、「それ」です、などといった言葉の活用は、科学や医学の世界では大きなリスクを招くこともあるのです。例えば、手術中に執刀医と手術助手や器具出しの看護師との間では、「あれ」「これ」「それ」という言葉のキャッチボールはあり得ないでしょう。なぜならば、手術中は医師の目は術視野にあり、器具置き場へ目を置くことはないからです。物にはすべてに名前があるのですから、科学者は、過ちを招くことのないように名称を呼ぶことが正しい言葉の使い方であると捕らえていくことが大切ではないでしょうか。

ものの名前をしっかりと言葉にすることは「物」だけでなく「者」においても、コミュニケーションをとるために極めて重要であると私は考えます。人は「君」、「おまえ」、「あんた」といわれるより「江口さん」というように名前と呼ばれた方が感情的にも良いからです。

言葉を大切にし、コミュニケーションを図ることが「心からの友」を増やし、来館者を魅了するのではないのでしょうか。博物館や図書館などの学術拠点で働く人には、言葉が大切な切り札になると私は信じています。

令和元年度 学芸員・司書関連新規就職先一覧

令和2年2月現在

学 科		就職先
学芸員	農学研究科博士前期課程	株式会社東京都奥多摩ビジターセンター(指定管理職員)
	農学科	株式会社日展
	畜産学科	公益財団法人下関海洋科学アカデミー
	畜産学科	公益財団法人ハーモニーセンター
	バイオセラピー学科	はまぎんこども宇宙科学館
	バイオセラピー学科	内藤記念館くすり博物館
	バイオセラピー学科	箱根ガラスの森美術館
現役	国際農業開発学科	箱根ガラスの森美術館
	森林総合科学科	株式会社図書館流通センター
	生産環境工学科	国土地理院
	食料環境経済学科	足立区図書館(指定管理職員)
司書	バイオセラピー学科	株式会社丸善ジュンク堂書店
	食料環境経済学科	株式会社ホビージャパン(出版・企画)
IT関係企業	農学科、畜産学科、バイオセラピー学科、森林総合学科、生産環境工学科、食料環境経済学科	12名

学 科		就職先
学芸員	農学研究科後期博士課程平成31年卒	北海道栗山町教育委員会
	農学研究科前期博士課程平成30年卒	堺自然ふれあいの森
	農学研究科前期博士課程平成30年卒	足立区桑袋ビオトープ公園(指定管理職員)
	畜学科平成20年卒	帝京科学大学フィールドミュージアムOPEN AIR LAB
	生物応用化学科平成25年卒	足立区都市農業公園(指定管理職員)
	バイオセラピー学科平成26年卒	鹿児島市平川動物公園
	畜産学科平成31年卒	三内丸山遺跡センター
司書	食料環境経済学科平成28年卒	農研機構本部情報統括情報システム課
	食料環境経済学科平成27年卒	紫波町図書館

農事遺産 ⑧

―農大古農具コレクション―

幼少期の昭和三十年頃の正月だった。両親に連れられ馬櫓で奥羽山脈の麓の家に、新年の挨拶で訪ねた記憶がある。馬を操る父の全身に新雪が舞う。その防寒の為に、上半身を蓑で被い、馬追の掛け声を発する父。母もまた背中を蓑で纏い直接風雪から私を護る為に蓑が被さる様に胸に抱え、馬櫓の進行方向に背を向け、荷台に腰掛け本家に向った。

その蓑とは防寒具や雨具で、風雪や風雨を防ぐ為に衣服の上から纏う。当時、化学繊維のコートなど少ない時代で、イネ科植物の藁などで作られた民具である。雨粒が絨維にかかると、それに沿って水が流れて、内部にはしみこまない原理になっている。藁の断面が中空構造で多重になっている。保温効果もある。古来、世界各地で使われ、中世以降は東南・東アジアの稲作文化圏で使われてきた。宗教行事にも用いられることが多い。それ故、地域には様々な蓑が見られ(写真)、その編みの技法が美しく芸術性をも思わせる。蓑を纏った姿は気品さを感じる。

風雪の中、蓑を纏い馬櫓を勇ましく走らす父と、母もまた蓑によって風雪から幼い私を護る。両親のその姿から、本家を訪ねる正月の風景を学ばせる娯と教育だったのではと、蓑に触れる度に幼少期を思う。(Y)



撮影：鈴木迅



資料名：蓑 受入番号：2065 収集地：新潟県松之山町(現・十日町市)1965年
形状：裃丈56.0cm 身丈90.0cm 腰下丈50.0cm 腰巾39.0cm 裾巾39.0 肩巾70.0cm

学術情報課程通信 第8号

GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学
学術情報課程 発行

〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1-1-1
電話 03-5477-2530
レイアウト・印刷／共立印刷株式会社
令和2年(2020)年2月29日 発行

www.nodai.ac.jp/info

編集後記

学術情報課程履修学生の就職先が、近年変化している。学芸員関連は、地方自治法の改正により、博物館・動物園を管理する指定管理事業会社が増え、司書関連は、ITサービス系の会社が伸びている。ここでもまた、百の姓を自在に操る農の精神が求められている。(R)

平成30年度
資格取得
状況

東京農業大学

資格取得者数

学 部	農学部	応用生物科学部	地域環境科学部	国際食料情報学部	生物産業学部	科目等履修生	合計
学芸員	90	16	14	16	28	1	165
司 書	25	2	5	10	—	1	43

水族館に行こう

「私もイルカのお姉さんになる。」そう決めたのは小学生の頃でした。

生物が好きで農大に入学しましたが、バイオサイエンス学科では海洋生物に関する授業は全くありませんでした。学芸員の資格も、ないよりはあった方が良いかと思いいし、学術情報課程を受講していましたが、水族館への就職を実現できるかわからないまま学生生活を送っていました。大学四年の時に学術情報課程の授業の一環で博物館実習があり、実際に水族館で実習をして、改めて水族館で働きたいと



軽部 芽未 KARUBE Meimi

1990年 東京都生まれ
2013年 応用生物科学部バイオサイエンス学科卒業
鴨川シーワールド 海獣展示一課 学芸員

思いました。周りの友人の就職先が決まってく中で、募集も少ない水族館の就職活動は難しく、鴨川シーワールドに就職が決まったのは卒業直前の二月でした。動物相手の仕事は大変なこともたくさんあります。動物は言葉こそ発しませんが、どこかで私たちにサインを出してくれ

ています。そのサインを見逃さないようにすることはとても大変な事で、最初から上手にコミュニケーションができるわけではありません。だからこそ想いが通じ合った時には言葉にできない嬉しさがあります。パフォーマンス（ショー）の後、お客様から拍手を頂いた時「また来るね」と笑顔で言われた時はとても嬉しく、自分のやりたいことを諦めずにやってきて本当に良かったと思います。飼育係の仕事は、パフォーマンスの運営だけでなく、飼育施設の整備、掃除から始まり、動物の観察、調餌（エサづくり）、給餌、訓練（動物だけでなく人も）、時には来園者に対してレクチャーを行うこともあります。

実際の飼育を通して得られた知見を、スライドなどを使ってお話しすることで展示生物に関する正しい知識を伝えていきます。「教育」は水族館の大切な役割のひとつです。学術情報課程で履修した事を活かし、素晴らしい動物たちを紹介していこうと思います。

考えぬいた先に見える自分の姿

私は、岩手県紫波郡紫波町にある紫波町図書館に勤務しています。

紫波町図書館は官民複合施設オガールプラザ内にあり、まちづくりのエンジンとして位置づけられています。特徴の一つは産業の農業支援です。農業専門のDBであるルーラル電子図書館を開館当初から導入し、農文協と連携しながら講習会をしています。今の私の仕事は、カウンターでの貸出業務や企画展示の補佐などを行っています。

元々本好きでしたが、司書になろうと思ったきっかけはたくさんあります。その中でも学生時代に公共図書館の持つ「誰でもいつでも利用できる」という理念に救われたからです。不安でいっぱいな時に図書館に行くこと、いろんな人が本を読んだり情報に触れたりする姿を見て、ここは自分が居てもいいところだと、元気を貰ったことがあります。そうした一つひとつの思い出から司書になろうと決心しました。

私は図書館勤務が初めてなので、先輩方から業務を教わっています。特に「利用者を第一に、利用者目線で考えること」の大切さは日々募るばかりです。利用者さんとの会話ひとつでも細やかな配慮や気遣い、司書として守るべき点を踏まえながら接する様子は、見習うべき姿勢だと思いました。

山田 恵里 YAMADA Eri

1992年 埼玉県生まれ
東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科卒業
紫波町図書館 専門嘱託員 司書

図書館に勤務してみても必要だと思ったのは、話す・聞くことの大切さです。カウンターで仕事をするというんな方が利用されます。そうした相手の見えない事情を考えることや、どんな言葉をかけようか悩むことはたくさんありますが、考えてみた先に気づかなかった自分の姿が見えてくると思います。本や調べ方の知識はもちろんですが、利用者さんについても気持ち良く図書館に来てもらえるようにしたいと考えています。学術情報課程のみなさん、一緒にがんばりましょう！



学生インタビュー

先輩の来た道

第六回



埼玉こども動物自然公園 園長

田中 理恵子 TANAKA Rieko

1963年 東京都生まれ
1986年 東京農業大学農学部畜産学科卒業
1986年 埼玉こども動物自然公園勤務、現在に至る。

分からなくなっていました。現在も魚のサケは切り身で泳いでいると思っている子供がいます。そこでこの動物園では、自然と親しみながら家畜について知ってもらおう、子供達の学びの一環として家畜について伝えようという思いではじめ、それが今でもメイン展示として残っています。

動物園で仕事をしようと思いいになった経緯を教えてください。

小さい頃から動物が好きで、家でありとあらゆる動物を飼育していました。私が子供の頃は野生から昆虫や鳥を捕まえてくるのが許されている時代でしたから笑。飼育して育てて、大きく成長する姿を見るのが好きでした。小学生の時に、私の叔母さんがある本をくれました。当時上野動物園に勤務していた女性の獣医さんが書いた本で、動物園での色々な出来事をまとめたものでした。それを読んで感動して「私、動物園に勤めたい」と思ったのがきっかけでした。

埼玉こども動物自然公園では家畜を展示していますが、その展示の意義は何ですか。

開園した当初は家畜しか展示していませんでした。昔は家の庭でヤギやニワトリを飼育しているのが当たり前でした。しかし時代と共に核家族化が進み、お父さんやお母さんすらも食卓に並ぶ肉がどういった過程を経てきたのか

会に対して持つている役割は何だと思いますか。

恐らく時代と共に役割は変わっていると思います。今は動物達にとって幸せな環境で飼育をしましょうという福祉的な傾向が強くなっています。動物園の役割は動物保護とか保全とか、自然環境を伝える場所だっているのはどの動物園でも一緒ですが、その中で動物園ごとにカラーが少しずつ分かれてくると思います。個性のようなものです。動物園同士の横のつながりがとても大切だと思います。

東京農業大学の学生時代の経験で今の仕事に生かされていることは何ですか。

たくさんあると思います。授業や実習、研究室活動や資格など全てが役に立っています。また、友人とのつながりも結構あります。今でも家畜関係に行った友人から最前線の情報を得たり、相談に乗ってもらったりしています。学芸員実習で学んだ色使いやキャプションの文字制限などもとても役に立っていますね。

動物園における学芸員の役割は何だと思いますか。

うちでは学芸員として採用されることはありません。動物園内でやっていることは学芸員の仕事と同じですが、それが世間に知られていないのが現状です。学芸員資格を持っていないと出来ない作業が動物園にはないので。日本動物園水族館協会は動物園全体を「いのちの博物館」と呼んでいます。が、なかなか学芸員として認められていないのが現状です。

イベントや企画がたくさんある動物園だと思いますが、これらを作っていく際に気を付けていることは何ですか。

恐らくうちが日本で一番多くイベントを行っていると思います。今イベントっていう呼び方をアクティビティに変えようと思っているところなんです笑。初代の園長が動物園教育に熱心な方で、平日に来てでも飼育員とコミュニケーションが取れるようにして欲しいということで、平日でも何かしらのイベントを行っています。後は色々な人に来て欲しいという思いと、来てくれたからには何かしら知識を持って帰って欲しいので、初めて訪れた方から常連さんまで、幼稚園のお子様からおじいちゃんおばあちゃんまで、全ての人が何かしらのイベントに参加できるように心がけています。

看板やパネルが色々な箇所に置いてありますが、実習生が多く来ているから増えているのでしょうか。

いえ、私達飼育員が先に作りしました。手作りで温かみのある看板の方が実はお客さんは読んでくださるのです（笑）。最初は手作り看

板で注意書き程度でしたが、だんだんと、少しいじらないうと情報が分からないような、ハンズオンにしてみました。作っていくうちにハンズオンをみんなで作っていく空気が動物園の中で出てきました。それを今では実習生達に作ってもらっています。自分の作品が動物園に残るってなんだか嬉しいですよ笑。「手作り動物園」なんて他の動物園からよく言われていました。

東京農業大学の学芸員課程を履修している学生に一言お願いします。

間違いない社会に出て役に立つことを学んでいるので、あとはそれを持って自分が何をやりたいか、何をしたいかが大切です。うちの動物園にも、もともと牧場にいた人や、養鶏をやっていた人が結構います。でもそういう知識もちゃんとスキルになっていて、実際現場を見ているので動物の扱いはとても上手です。学んだこと、経験したことは絶対無駄にはならないと思います。自分を信じて頑張ってください。後悔しないようにちゃんと卒業してくださいね（笑）。

取材 川鍋絢子（農学部畜産学科四年生）
上田兼司（農学部畜産学科四年生）

